

言語意識を問い直す Critical Language Awareness の実践

徳井厚子 言語教育講座

キーワード Critical Language Awareness, ディスコースの産出,
社会過程としてのディスコース, 言語教育

1 はじめに

近年、国内でも日本語を母語としない児童生徒の数が増加するなど教育の現場でも「多文化化」の波が否応なく押し寄せてきている。多言語多文化共生社会における言語教育の役割とは何だろうか。筆者は、小中学校の言語教育に携わる教員の養成において、自らの言語意識をクリティカルに問い直す訓練が重要ではないかと考えた。当報告では、教員養成プログラムの中で行った CLA(Critical Language Awareness)のアプローチを用いた自らの言語意識を問い直す実践を中心に実践報告を行う。

2 Language Awareness と Critical Language Awareness

Language Awareness(LA)とは、言葉の多様性や私たちの生活におけることばの役割を意識し、それに対する理解を深めることである。LA は、言語学習の役に立ち、効果的なコミュニケーション能力を高めたりするばかりでなく言語的、民族的多様性に敏感かつ寛容になりひいては自分と異なる背景の人々と人間関係を育むことができるようにすることが目的とされ、幾つかの実践がなされてきている(注1)。

この LA の考え方にある、言葉の多様性や言葉の役割を改めて意識し、言語的、民族的多様性に敏感かつ寛容になるという意識は言語教育に携わる者にとっても重要であると考え。言語の多様性を意識化させ、それに対して敏感かつ寛容になるための教育を将来言語教育に携わる教員養成のプログラムで行うことが必要だろう。しかし、その一方で、筆者は、LA の考えだけでは以下の点が不十分ではないかと考えている。

まず、「相手への理解を問い直す必要がある」と述べられているが、「相手を理解しているかどうか」そのものを問い直す必要があるのではないかと考える。また、更に「言語的、民族的多様性に敏感かつ寛容になるという意識」だけではなく、意識化している自己自身を改めてクリティカルに問い直す必要があるのではないかと考える。つまりクリティカルでメタ的な視点が更に必要ではないかと考えている。

最近では、よりクリティカルなアプローチである CLA (Critical Language Awareness) が注目されてくるようになってきている。LA では、言葉の多様性や役割を意識化するが、なぜある言語、言語形式が使われているのか、社会構造がどのように作り出されているのかまでは問い直しをしていない。CLA とは、言葉を言語形式、コミュニケーションの手段、文化をの現れとしてだけではなく、その背後にある価値観、社会構造をクリティカルに捉えるアプローチのことである。

飯野(2003)は、「言葉をその社会の価値観や社会構造を写し出すと同時にさらにそれらを生み出す社会過程 (social process)の一部として捉える」ことの重要性を述べている。LA の場合、多様性を社会に存在する現実として受け入れ、社会構造の反映として描写していくが、「なぜ」ある言語が選択し使用されているのか、言語が使われることによって社会構造がいかにつくり出されていくかとい

うことについては問うことをしていない。CLA では、わたしたちが言葉を使うことを通していかにそれらを受容し、生産、再生産しているのかを問題にしている。

フェアクラフ(Fairclough,N.,1992) は、「言語現象は社会の一部である。つまり、言語現象は社会現象でありの一形態であり、社会現象は言語現象を含む」とし、マイクロなレベルのディスコースを社会文化的なレベルで捉えることの必要性を述べている。つまり、ディスコースを静的で固定的なものではなく、動的で可変的なものとして捉えているのである。また、言葉とディスコースは切り離れた別のもので捉えず、関連のあるものとして捉えている。フェアクラフは、マイクロなレベルのテキストとマクロなレベルのテキストを関連づけ、次のように説明している。ディスコースはテキストを産出する過程 (process of production) と同時に解釈する過程(process of interpretation)であるという。つまり、ディスコースは何かの結果であるのではなく、それそのものを動的なプロセスとして捉えているのである。

更に、このようにことばをコンテキストの中で捉えるために次の分析が必要であるとしている。

- 1) テキストの言語分析
- 2) テキストの産出と解釈の過程を含む相互行為の分析 (社会的行為 social practice としての談話分析)
- 3) 社会的コンテキストと関連づけて社会的活動 (social action) としての談話事象の分析

つまり、CLA では談話を単なる静的な存在としてとらえるのではなく、社会的行為 (social practice) として動的に捉えている。

更に、フェアクラフは、CLA の立場から、実際にクリティカル言語学習をどのようにするかについての枠組みについて以下のように述べている。

- 1) ディスコースは社会によって形成されていると同時に社会を形成している。
- 2) ディスコースは知識、知識の対象、社会関係、社会的アイデンティティを形成 (そして変化) させることができる。
- 3) CLA は社会とディスコースがいかにお互いを形成しているかを明らかにする。

談話を単なる静的な存在としてとらえるのではなく、マクロな社会的なレベルとも関連づけ、談話を社会的行為 (social practice) として動的に捉えていく視点は、母語、第二外国語にかかわらず、言語教育に携わる者にとって重要だろう。以上の観点から、言語教員に携わる教員養成プログラムの中で CLA の実践を試みた。本稿では、特に CLA を中心とした実践報告を行う。

3 実践の概要

3-1 授業の概要

授業の概容は以下の通りである。

対象：教育学部言語教育専攻1年 専門科目「言語教育概論」35名

- 1) 言語教育観、授業観の振り返り
- 2) 多言語多文化社会における言語教育のあり方を考えるーマクロな視点からー
 - ◇外国籍児童生徒と言語教育
 - ◇世界の言語政策と言語教育
- 3) 自らの言語意識の振り返り-ミクロな視点から-
 - ◇意味づけの仕方
 - ◇状況と意味
- 4) マクロとミクロの繋がりから言語教育を考える
 - ◇CLA
 - ◇コミュニケーション意識のふりかえり

全体の流れは、まず、これまでの言語教育観、授業観をふりかえりから始めた。次に、マクロな視点から社会との繋がりの中で言語教育のあり方を考えた。具体的には、国内における外国籍児童の増加の現状と言語教育のあり方、世界の言語政策（オーストラリア、ケニアの事例など）や国内のアイヌ語の歴史などについてふれた。更に、マクロな視点として個人、集団のレベルで言語の使用について意味論、語用論的観点からふれた。その後、マクロとミクロの繋がりから、クリティカルディスコースアウェアネス（CLA）の実践を行った（注2）。なお、CLA の実践は2コマ分（180分）を使っている。

3-2 CLA のための授業実践

ここでは、CLA のための授業実践の報告を行う。

方法

CLA を授業に導入するにあたり、以下の方法で授業を行った。

1 まず、授業で、新聞の広告のキャッチフレーズを見せた。キャッチフレーズは、「私の肩こりに盆休みはない」「社長はその日を待っている 社長、ご決断を！」を選んだ。いずれも社会的背景がディスコースに影響していると考えられたからである。

授業では、それぞれについて、以下の観点からそれぞれ個々に考察を行い、その後グループで共有した。

- (1)このキャッチフレーズは「誰が」「何のために」「誰を対象に」書いたものか
- (2)どんな社会的コンテキストのもとでこのキャッチフレーズが生成されたのか
- (3)もし異なったコンテキストの人を対象とする場合には、どのようなキャッチフレーズになるか、作り替える。

(1)(2)はテキストの解釈過程、(3)は新しい社会的コンテキストの中でテキストの産出過程を体験することを目的としている。

2 1 の教室での実践の後、宿題として各自広告から一つキャッチフレーズを見つけ、(1)から(3)について考察し、翌週の授業で発表した。

実践例

1 の実践についてそれぞれの学生の回答例を示す。

キャッチフレーズ1

私の肩こりに盆休みはない

(1)このキャッチフレーズは「誰が」「何のために」「誰を対象に」書いたものか

a 生産者が消費者に向けて書いた。

(2)どんな社会的コンテキストのもとでこのキャッチフレーズが生成されたのか

a 盆休みには誰もが休む, という社会的コンテキスト

b 365日働き詰めの社会

c 日本人には肩こりの人が多いという社会的背景

d 日本において盆は休みだという共通認識の上に成り立っている。

(3)もし異なったコンテキストの人を対象とする場合には, どのようなキャッチフレーズになるか, 作り替える。

a 子ども向けに 「母の日にあげよう」「おとうさん, おかあさんの肩こっていない?」

b 外国の人向けに「私の肩こりにクリスマスはない」「私の肩こりに休暇なし」

c 「こんな肩こりじゃクリスマスは過ごせない」

d 「私の肩こりに日曜日はない」

e サラリーマンではなく、高齢者向けに 「肩こりと生きてますか?」

f わたしの肩こりに休みはない。

g 最近肩こっていませんか?

キャッチフレーズ2 : 「社長はその日を待っている 社長, ご決断を！」

(会計ソフトのCM)

(1)このキャッチフレーズは「誰が」「何のために」「誰を対象に」書いたものか

企業の社長に, 会計ソフトを買うことを決断してほしい

コンピューター会社が会計の仕事を楽しむために企業を対象にして

会計をより簡単にさらにスピーディーにするため。

(2)どんな社会的コンテキストのもとでこのキャッチフレーズが生成されたのか

社長が最終決定権を持っている社会

経費がかかる社会。

パソコンが普及している社会

「社長」と言われることで平社員の人は嬉しくなるという社会的背景

「社長」と言われると持ち上げたりほめられたりされている気になる社会

- 社長の鶴の一声が通りやすい社会
- 日本では社長が統率者であるというイメージ

(3)もし異なったコンテキストの人を対象とする場合には、どのようなキャッチフレーズになるか、作り替える。

- 社長ではなく、事務の人に→余計な仕事ふえてませんか？
- 社員が社長に→「社長さんにねだってみてよ」
- 家庭で使うソフトの場合→「お母さんもららくの家計簿」
- 大統領、ご決断を！
- 奥様、ご決断を！

キャッチフレーズ1では、(2)でこのキャッチフレーズが、働きすぎ、盆休みという社会的背景があってはじめて生成されたものである、ということについての気づきが見られた。(3)では、子どもむけ、外国人むけに変えたものが見られた。「肩こりに〇〇はない」とフレーズは変えずに盆休みの部分を他の語（クリスマスなど）に言い替えただけのものもみられたが、「肩こりと生きますか？」のようなフレーズそのものを変えたものも見られた。

キャッチフレーズ2は、会計ソフトのCMである。(1)ではほぼ同じ解釈が見られた。(2)では社長の社会的立場やイメージ、PCの普及など多様な社会的背景への解釈が見られた。(3)では、もとのフレーズである「〇〇、ご決断を！」をそのまま踏襲したものも見られたが、「余計な仕事ふえてませんか？」のような新たなフレーズをつくったケースも見られた。

いずれからも言葉を社会的コンテキストの中から解釈していく過程については多様な解釈が見られたが、新たな社会的背景を想定したディスコースの生成に関しては、もとのディスコースのフレーズそのままを言い替えただけのものが多く、新たなフレーズを創造するというものはあまり見られなかった。これは、これまでの母語、第二言語を含む言語教育の中で「背景からどのような意味が読みとれるか」といった解釈を中心とする学習は行われてきたが、新たな社会的背景を想定しディスコースがどのように生成されていくかという学習はほとんどなかったためではないかと考えられる。

なお、教室内での実践の後で、宿題として各自広告等をもとにキャッチフレーズを選び、(1)から(3)までの考察を行った。以下はその中の一例である。

キャッチフレーズ 「ま、一杯」 (養命酒の広告)

(1)このキャッチフレーズは「誰が」「何のために」「誰を対象に」書いたものか

医薬品会社が疲れている人たちのために薬を飲んでいやされてもらおうという思いからの言葉である。

(2)どんな社会的コンテキストのもとでこのキャッチフレーズが生成されたのか
働きすぎなどよく疲れることが多い現代社会

(3)もし異なったコンテキストの人を対象とする場合には、どのようなキャッチフレーズになるか、作り替える。

外国人に「ま、一杯」と言った場合「飲んでみてはどうですか」という意味だけに捉えられがちだ

と思う。「癒す」という意味では捉えられないのではないか。

宿題では、一見容易に理解できないキャッチフレーズを集めてくるケースが多かった。また上記のように、ふだん見慣れている「当たり前を理解している」と思っているキャッチフレーズを他のコンテキスト（この場合は外国人）から改めて捉え直してみると難しいということに気づいたケースもあった。ふだん見慣れている広告のキャッチフレーズなどのディスコースを多角的な視点から意識して見るができるようになったのではないかと考える。

では、学習者はこの実践をどのように受けとめているのだろうか。学習者の感想を挙げる。

- a ディスコースと社会的コンテキストの関係は切り離せないと思った。社会が必要としているからこの宣伝が生まれてくる。また逆にディスコースから社会やコンテキストを考えてくるとさらに新しいものが生まれてくる。その中で商品が流通していると思った。
- b ディスコースの産出はなかなかできなかった。
- c 解釈はわりと簡単にできたのですが、産出は難しかったです。でも広告を訴える対象となる人の年齢を変えて考えてみると広告の捉え方も訴えの言葉も全く異なってくるので作っていて多くの発見があった。
- d 広告の見出しから目的やコンテキストを解釈するのは割とわかりやすかったが、対象を変えて新たなものを産出するのはとても難しかった。しかし、裏に隠された意味を創造するのはとても面白かった。
- e いつもは広告を見てコメントを見つけても考えたりしないが、それほど長くない文章でもじっくり眺めていると「こんなに理解するのって大変だったっけ」と感じました。

b,c,d に見られるように、ディスコースの産出の難しさを書いている感想が見られた。c や d は産出の難しさに戸惑いながらも、創造する楽しさや捉え方の違いの発見など同時に体験したことが書かれていた。また、a のようにディスコースと社会的コンテキストの関係に気づき、社会とディスコースの双方向の視点から見ることを示す感想も見られた。また e のように改めて理解の難しさを感じたという感想も見られた。

4 実践の意義と課題

クリティカルという意味は非難や否定を意味するものではなく、もともとは様々な観点から検討するという意味を持つ。CLA の実践は、談話を社会的な過程と動的にとらえ、解釈と同時に別の社会的コンテキストから生成するという創造的な行為も含む。新たなコンテキストから生成するためには一歩離れた観点からクリティカルにその談話を捉えていく視点も必要になる。

今回この実践を行い、学習者からは解釈の過程は容易であったがディスコース生成の過程への戸惑うという感想が幾つか見られた。この戸惑いは、これまでいかにディスコースを固定したコンテキストから捉えていたかという気づきにつながったのではないかと考える。また、ディスコースの生成過程を体験したことにより、談話を社会的過程として動的に捉える視点を養うことができたのではないかと考える。こういった視点は言語教育に携わる者にとって必要ではないかと考える。

今回ディスコース生成過程への戸惑いが見られたが、これはこれまでの学校教育の中で「決められたコンテキストの中で解釈する」という学習の仕方に慣れてきたためではないかと考える。母語、あ

るいは第二言語教育の中である決められたコンテキストが与えられ、与えられたコンテキストを解釈する、ということには慣れているが、全く異なった新たなコンテキストから談話を生成していくという訓練をほとんど行ってこなかったためであろう。

しかし、外国籍児童の増加など教室や地域でも多文化化が進んでいる現在、多様な背景を持った人たちとのコミュニケーションが日常的になりつつある。そのような状況の中で、これまで馴染んできたコンテキストから談話を解釈をするという学びだけではなく、新たなコンテキストの中から談話がどのように生成されていくのか、といった視点から捉えていく学びも必要になってくるのではないかと考える。

新たなコンテキストの中での談話の生成を意識化するために、例えば、小中学校の国語や英語の読解の授業で、与えられたテキストをそのまま解釈するの实践だけではなく、このディスコースがどのような社会的な背景のもとで生まれたのか、別の社会的背景であればどのようなディスコースが生まれる可能性があるか、といった問い直しをしていく視点から談話の生成過程を再考する实践を行っていくことも一つの方法であろう。このようなクリティカルに談話を捉える訓練をすることにより、談話そのものをより創造的なものとして捉え、動的、多様な視点から捉えていく視点が養われるのではないかと考える。また、一步離れた観点から談話をクリティカルに捉え、談話そのものを静的な存在ではなく動的な社会的過程として捉えていくこともできるだろう。

注

注1 LAの考え方に基づく言語教育はこれまで幾つか試みられてきている (Encyclopedia of Bilingualism and Bilingual Education,1998)。

例えば、LAを取り入れた授業のトピック例として「バイリンガリズムと言語接触」「世界の言語」「言語変化」「ジェンダーと言語」「地域方言と社会方言」等が挙げられている。

注2 クリティカルという言葉は日本語で批判的と訳されることが多いが、実際の意味は否定的という意味ではなく、もともとの意味は多角的に捉える、建設的な批判という意味である

参考文献

飯野公一他(2003)『新世代の言語学 社会・文化・人をつなぐもの』くろしお出版

野呂香代子他(2001)『「正しさ」への問い』三元社

Fairclough,N.(1992) Critical Language Awareness. England:Longman.

Fairclough,N.(1989) Language and Power. England:Longman.

(2005年5月11日 受理)